

まえがき

持ち運びしやすく、手軽な大きさで、しかし紙面の見出しは大きく見やすく、すぐにそのことばが見つかるように、という工夫をもって、本書の初版が世に出たのは二〇一〇（平成二十二年）年でした。以来、多くの方に好評をもって迎えられ、便利にご利用いただいてきましたが、すでに刊行から十三年が経過し、時代も平成から令和に変わりました。

この間、東日本大震災や新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるパンデミック、IS（イスラム国）の侵攻やウクライナ戦争などの相次ぐ紛争、また地球温暖化による気候変動と脱炭素化への取り組みなど、世の中を大きく変える出来事が頻発してきました。また、情報通信技術（ICT）のめざましい発達やAI（人工知能）の飛躍的な拡大などの社会変動にともない、多くの新語、それもカタカナ語に加えて、アルファベットによる略語も洪水のごとくニュースや報道を通じ、私たちの日常生活にあふれかえるようになっていきます。

本書は、この間の新語やカタカナ語、アルファベット略語など、より多くの語を収録するために、このたび改訂を行い、約一万五千語近く語数を増やした総語数約六万四五〇〇の第二版として刊行いたします。

内容ではできるだけ新しく、かつ解説は簡潔にして多くの語を収録するために、佐竹秀雄・三省堂編修所編『デイリーコンサイス国語辞典 第6版』（三省堂 二〇一八年刊行）をもとにし、さらに近年の語も追加して再編集しています。

本書が読者のみなさまの傍らにあって、日常生活の用に役立つことを願ってやみません。

二〇二三（令和五）年 九月

三省堂編修所

この辞典を使う人のために

1 収録語の範囲

この辞典は、佐竹秀雄・三省堂編修所編『デイリーコンサイス国語辞典 第6版』(三省堂 二〇一八年刊行)をもとに、あらたに近年の語も追加して再編集し、一般語句のほかに、新語・外来語・俗語・専門語・略語・慣用句・ことわざ、また近年特増加するアルファベットの略語など、現代の一般社会人が日常生活でよく目にする事ば約六万四五〇〇語を収録しました。固有名詞や助詞・助動詞、感動詞など、一般的な国語辞典として日常生活においてあまり引かれることのない語は割愛しました。

持ち運びしやすく引きやすい判型で、できるだけ見出しや表記を大きくして見やすくするとともに、現代の日常生活に必要な見出し語をできるだけ多く収めるようにしました。

2 親見出しと子見出し

① 親見出しは、現代仮名遣いで、和語・漢語は、ひらがなで、外来語はカタカナで示しました。

【例】 **カベロ** **ハヤシ** **アイス**

② 複合語は、三拍以上の上位要素部分が見出しに立っている場合は、その語の子見出しとして示しました。

かっつー→かっつ

② 子見出しは、親見出しのあとに追い込んで、ーに続く部分の五十音順に配列しました。

4 表記

① 表記は、「常用漢字表」(平成二二年、内閣告示)「現代仮名遣い」(昭和六一年、内閣告示。平成二二年一部改正)「送り仮名の付け方」(昭和四八年、内閣告示。平成二二年一部改正)に基づいて示しました。

② 送り仮名は、「送り仮名の付け方」の本則と例外に従ったものだけを示し、原則として許容の送り仮名は示しません。

③ この辞書では単に漢字での表記形を示すだけでなく、その語が実際にどのように書かれるかの情報をも示しています。ごく一般的な表記としての標準表記と、ときとして用いられる参考表記とに分けました。標準表記は【】で囲み、参考表記は()で囲みました。

【例】 **がつかく**【外郭】(外廓)

④ カタカナの表記で、見出しと共通する場合はその部分で「ー」で代行しました。

【例】 **アイシート**【ICー】

⑤ 平仮名や漢字表記が重複する場合も適宜「ー」で代行しています。

【例】「桜狩り」は、「桜」の子見出し

「北回歸線」は、「北」の子見出しにはしない

③ 連語は、原則としてその最初の構成要素の子見出しとして示しました。

【例】「汗の結晶」は連語で、「汗」の子見出し

④ 句は、原則としてその最初の構成要素の子見出しとして示しました。

【例】「手を貸す」は句で、「手」の子見出し

⑤ 子見出しは、ーで親見出し該当部分を省略し、漢字仮名交じりで示しました。漢字には振り仮名で読みを示しました。

【例】(さくら)ー狩り

(こうきょう)ー事業

(あせ)ーの結晶

(て)ーを貸す

3 見出しの配列

① 親見出しは、五十音順に配列しました。

外来語の音引きは、ア行の仮名に読み替えて配列し、濁音・半濁音は清音のあと、拗音・促音は直音のあとに配列しました。

【例】シヨーはシヨオの位置にくる

はじ→はい→せじ

きやく→きやく

【例】あけはなつ(開け放つ・明けー)

あしでまとつ(足手まとつ) (ー纏つ)

5 外来語・アルファベット略語

① 外来語は、原則として「ー」の中にその原語のスペル(綴り)を示しました。英語を除いて、その言語名も示しました。

【例】アーケード [arcade]

アール [l'art de vivre]

ギリシャ語・ロシア語などローマ字を用いない言語の場合は、ローマ字綴りに直して示しました。

【例】アガペー [ギリシャ語 agape]

イクラ [ロシア語 ikra]

② アルファベットの略語見出しは、巻末付録の「アルファベットの略語・記号一覧」として収めました。本文の見出しから巻末付録の見出しに送る場合は以下のように示しています。(「付」は「付録」を示す。)

【例】 **AMeDAS** [AMeDAS] ⇨付 AMeDAS

6 意味・用法

① 解説は、簡潔・的確を旨としました。

② 多義語の場合は①②③などに分け、基本的な意味から特殊な意味へと並べました。

③ ①の記号で、比喩的な意味や発展的な意味、文脈や場面

記号・略語一覽

などで限定された意味、特定の語とつながることによって現れる意味などを示しました。
④ 同じ音のことで漢字表記が異なり、意味も大きく異なる場合は ■ ■ などと示しました。

⑤ 他の見出しに送る場合は、◇を用いて、次のように示しました。

【例】いぐすえ ⇨ ゆくすえ

7 補説

表記や語釈を補う情報や注記などを「」に入れて示しました。また、用例の補足的な説明は()に入れて示しました。

8 その他

スペース節約のために、類似の表現の記述が連続する場合は、「と()」を組み合わせて記述を合併して示しました。

【例】…する(と)(人)

↓「…すること」と「…する人」の合併

…する役(の)人

↓「…する役」と「…する役の人」の合併

(遠くへ)投げる

↓「遠くへ投げる」と「投げる」の合併

…する(重)もの

↓「…するもの」と「…する重いもの」の合併

あ

【あ】①アジツ。〔亜細亜から〕②準備。

【あ】熱帯

アーカイブ [archive] デジタルデータ化した大規模な資料。また、そのためのデータの圧縮技術。〔古文書、公文書館の意〕

アーガイル [argyle] 洋服で、ひし形模様。

アーキテクトチャー [architecture] ①建築(学)。②コンピュータの基本構造。

アーケード [arcade] ①商店街で、日よけ・雨よけの屋根をつけた道。②大建造物で、丸い天井をもつ通路。

アース [earth] 電気機器と大地を結ぶこと。また、そのコード。接地。〔大地・土の意〕

—カラー [earth color] 大地の色。茶系統の色。

—ワーク [earth work] 現代美術の1。ランドアート。〔大地や自然物を素材に大規模に制作される〕

アーチ [arch] ①建築の構造で、弓形(の)門。②持続。③野球で、ホームラン。―をかける

アーチエリ [archery] 洋弓(術)。また、その競技。

アーティストリック [artistic] 芸術的。

—スイミング [artistic swimming] 水泳競技の1。水中パレオ。

アーティスト [artist] 芸術家。アーティスト

あ ▶ あいれな

あ

【】 標準表記を示す

〔 〕 参考表記を示す

― 見出し該当部分などの省略を示す

◇ 比喩的な意味や発展的な意味を示す

◊ これ以下に示す情報が◇の前の全体にかかることを示す

〔 〕 用法の補足的な説明や注記などを示す

() 用例などの補足的な説明

対義語を示す

類義語を示す

⇨ 本文中の他の見出しに送ることを示す

⇩ 巻末付録「アルファベットの略語・記号一覽」の見出しに送ることを示す

ト。〔アルチザン

アーティチョーク [artichoke] 西洋野菜の1。ごぼみを食べる。チオウセンアザミ。

アーティフィシャル [artificial] 人工的。技巧的。〔ナチエラル

アート [art] ①芸術。美術。②アート紙。

—紙 [art paper] やある上質紙。

—シアター [art theater] 芸術映画専門劇場。

—セラピー [art therapy] 芸術療法。〔ダンスや音楽を通して治療する〕

—ディレクター [art director] ①演劇の美術監督。②広告美術の専門家。

—フェア [art fair] 現代美術の見本市。

アーバン [urban] 都会の。〔ライフ

—イベント [urban event] 夜に催す音楽会(映画会)。…のタペ。シヨパン。〔タ方の意〕

アーミー [army] 軍隊。特に、陸軍。

—ナイフ [army knife] 多機能な折り畳み式小型ナイフ。〔軍隊で日用品として採用〕

—アーム [arm] ①腕。②腕状のもの。〔こす

—チェア [armchair] ひざ掛けこす。

—レスト [armrest] 洋服のこす。

—ホルト [arm rest] ①座席などのひざかけ。②デスクワークに用いる腕用のまくら。

—レスリング [arm wrestling] 競技と

としての腕相撲。

アーメン [ポルトガル語 amen] キリスト教で、祈りなどの後に唱える語。〔確実・まことに意〕

アーモンド [almond] バラ科の小高木。実は菓子・料理の材料や薬用に。巴旦杏。

—オール [フランス語 arc] 面積の単位の一。一〇〇平方メートル。

—アート [フランス語 art] 芸術。

—デコ [フランス語 art deco] 装飾美術の様式の一。〔九二〇年代に流行〕

—ヌーヴォー [フランス語 art nouveau] 建築・工芸の新様式。〔二〇世紀初頭、フランスで流行〕

—アールエイチいんじ [Rh 因子] 血

球中の因子の1。アールエッチ因子。〔その有無によってRhプラスとRhマイナスに分けるのがRh式血液型〕

あ【合】合ひ着。合ひ服。

あ【愛】①かわいがり大切に思うこと(心)。②恋。

—の結晶が、愛し合う男女の子供。

—の鞭が、愛するがゆえにとる厳しい態度。

あ【藍】①タデ科の一年草。②アイの葉や茎から採る染料(の)色。藍色。

アイ [eye] 目。①目に似たもの。〔カメラ—

—あいがび] 相合傘 一本の傘を男女ふたりが持つこと。

アイアン [iron] ボールを打つ部分が鉄製のゴルフクラブ。〔鉄の意〕〔岡ワッド

あ【つれな】相容れなく 互にこ

あいじん【合印】書類や帳簿で、照合のしるしに押す印。合判。
 あいじん【好飲】特定の嗜好し、飲料を日ごとから好んで飲むこと。
 あいうち【相打ち・相討ち・相撃ち】両者が同時に打ち合うこと。①あいこ。
 あいせんか【愛煙家】タバコが好きな人。
 あいせんか【愛縁家】男女の気が合う合わせ、みなふしぎな縁による。
 あいおい【相生い】①同じ木の根から二本の幹が生長すること。「相老」「意」が共に長生きすること。「相老」「意」
 あいか【哀歌】悲しい思いの歌。エレジー。
 あいがかり【相懸かり】①将棋の序盤で、双方が同様の駒組みで対すること。
 ②敵味方が同時に互いに攻め合うこと。
 あいかた【相方】その錠に合う別の錠。
 あいかた【相方】①相手。②敵娼。(遊里で)客の相手の遊女。③【合方】①能で、はやし(方)。②歌舞伎で、せりふに合わせて入る三味線。
 あいがも【間鴨・台鴨】マガモとアヒルとの雑種。食用。
 アイカラー【eye color】アイシャドウ。
 あいかわらわ【相変わらさ】以前と同じ様に。
 あいかん【哀感】もの悲しい感じ。「一をこめて歌う」
 あいかん【哀感】「文章語」悲しみと喜び。「一をこめて歌う」
 あいがん【哀願】哀れっぽく頼むこと。

【一】「歌」
 あいじょう【相性】ふたり(男女)の気性が合うこと。
 あいじょう【愛称】ニックネーム。あだ名。
 あいじょう【愛妾】気に入りのめかけ。
 あいじょう【愛嬢】「文章語」まなむすめ。「他人の娘についていう」【類】令嬢【愛息】
 あいじん【愛人】①恋人。②情人。
 アイシング【icing】①患部を冷やすこと。②洋菓子の砂糖の衣。③アイスホッケーの反則の一。アイシング ザパック。
 アイス【ice】①こおり。②アイススクリーム・アイスキャンディーの略。③高利貸しの俗称。(氷菓子と同音から)
 アリーナ【ice arena】スケートリンク。
 キャンディー【ice candy】棒状の氷菓子。
 キューブ【ice cube】角氷。
 クリーム【ice cream】冷たい乳製品。
 コーヒー【ice coffee】冷たいコーヒー。
 ショー【ice show】アイススケートによるショー。
 スケート 氷上をすべるスケート。「ice skatingから」
 ダンス フィギュアスケートの種目の

あいがん【愛玩】大切にしておきたいこと。「一動物」
 あいぎ【合い着・間着】①上着と下着との間に着る衣服。②私服。
 あいきやく【合気道】武道の一。護身が目的で、関節わざが中心。
 あいきやく【相客】同席(同室)の客。
 アイキャッチャー【eye catcher】広告で、人目をひくデザイン。
 あいきょう【愛敬・愛嬌】①にこやかかわいこと。②あいそ。「一をふりまく」
 あいきょう【愛郷】郷土を愛すること。
 ①心の郷土を愛する気持ち。
 あいくち【合口・匕首】つばのない短刀。(その長さから九寸五分ともいう)
 あいくち【合い口】相性。「一が悪い」
 あいくる【愛くるしい】あどけなくかわいらしい。
 あいけん【愛犬】かわいがっている犬。また、犬をかわいがること。「一家」
 あいこ【相子】勝負なし。【類】ひきわけ
 あいこ【愛顧】引き立てること。ひいき。「一をいただく」【類】顧み
 あいこ【愛護】愛し好むこと。「一者」
 あいこう【愛校】自分の学校を愛すること。「一心」
 あいこく【愛国】母国を愛すること。
 あいごつ【合言葉】①仲間を確認する合図の言葉。②主義や主張を示す標語。
 あいつま【間駒】将棋で、防御のために相

一。男女のペアで踊る。「ice dancingから」
 ティー【ice tea】冷たい紅茶。
 ジャック【ice pick】氷を割る錐。
 ペール【ice pale】氷入れ。
 ボックス【icebox】氷で冷やす(携帯用)冷蔵庫。
 ホッケー【ice hockey】氷上でスケートをはいてするホッケー。一チーム六人。
 アイスバウンド【ice bound】積雪の表面が氷のようになった状態。
 あいすべき【愛すべき】かわいくて親しみを感ずる。
 あいすべし【愛する】①かわいがり大切にすること。②好む。「酒を」③恋する。
 あいせき【合い席・相席】(飲食店で)他の客と同席すること。
 あいせき【哀惜】①愛して大切にすること。②おしむこと。「落花に対する」
 あいせん【哀切】哀れで悲しいこと。
 アイゼン 登山靴に将棋で、互い先。
 アイゼン 登山靴に将棋で、互い先の金具。「アイゼン Steigseisenから」
 あいせつ【愛前】相前後して。次々に。
 あいそ【哀訴】涙ながらに訴えること。
 あいそ【愛想】①人当たりがよこと(言葉)。②もてなし。「何の—もなし」③↓おあいそ◇「あいそ」の転
 一が尽きるこやけがさす。

手の駒の利き筋に打つこと(駒)。あい。
 アイコン【icon】コンピューターの画面に表示される、プログラムやファイルを示す絵や図形。(アイコンから)
 アイコンタクト【eye contact】視線を合わせて意思を通じること。
 あいさい【愛妻】妻を愛し大切にすること。また、その妻。「一家」
 あいさつ【挨拶】①「こんにちわ」や「さようなら」などの言葉。②会合や集会の儀礼的な言葉(一を述べること)。「就任の—」③うけこたえ。「一に困る」④↓あいさつ②
 ①代わり 交際のための、あいさつの代わりとなるもの(品物)。
 あいし【哀史】悲しい歴史(物語)。
 あいじ【愛児】かわいがっている自分の子供。
 あいじゅう【愛し合う】互いに愛する。
 アイシャドウ【eye shadow】目の周りに塗って、目元を引き立たせる化粧品(アイシャドウとも)
 あいじやく【愛着】あいちやく。
 アイシャドウ【eye shadow】目の周りに塗って、目元を引き立たせる化粧品(アイシャドウとも)
 あいじゅう【愛愁】やるせない悲しみ。
 あいじよ【愛書】①本が好きなこと。「一家」②愛読書。
 あいつじょう【哀傷】悲しみに心をいためる

一がない人当たりが悪い。
 一尻がしやになつて 見捨てること。
 一もつそもつ果はる まったくきらいになる。
 一笑い 相手にへつらつくり笑い。
 あいつく【愛想】あいそ。
 あいつく【愛憎】愛と憎しみ。
 あいつく【愛蔵】大切にしまっておくこと。
 一版【愛息】「文章語」かわいがっている息子。「他人の息子についていう」【類】令息【愛嬢】
 アイソトープ【isotope】同位体。同位元素。
 あいぞめ【藍染め】アイの染料で染めること(染めたもの)。
 あいだ【間】①時間・空間のへだたり。また、その範囲。②なか。「木立ちの—」③関係。「親子の—」
 一柄【人】と人の関係。
 一に立つ 仲介する。
 アイター【I-turn】「相製語 I turn」都会出身者が地方で就職、定住すること。「Uターン」のもじり。
 あいたつ【相対】差し向かい(対等)で物事をすのうた。
 一尻へ互いに一承知(相談)の上ですること。
 あいたりする【相対する】①互いに向かい合う。②対立する。
 あいたしゆき【愛他主義】他人の利益と幸福をめざして行動する主義。【類】己

主観
あいたがせ【愛着】心ひかれ思い切れない力する。
あいぢやく【愛着】心ひかれ思い切れないこと。あいぢやく。癡執着・未練。
あいぢやく【哀調】もの悲しい調子。
あいついで【相次いで】次々と。
あいつづ【相次ぐ】次々に続く。
あいつづ【相槌・相繼】鍛冶場で、二人が互いに鎚を打ち合うこと。
一を打つ 人の話に受け答えをし、うなずく。
あいつて【相手】①対象となるもの(人)。②仲間。「遊び」③敵。「一に不足はなし」
一取る 争いの相手とする。
一にならぬ 実力などに差がありすぎて、対抗できない。
アイデア【idea】着想。アイディア。
アイマン【和製語 idea man】名案を次々に出す人。
アイデューカーズ【ID】身分証明書。
アイデューカード【ID】身分証明書。「Identity card」略。
あつむ【相弟子】同じ先生に学ぶ者があつむ。
アイテム【item】①(データの)項目。②(収集品や服の)品目。「人気の一」
アイデンティティ【identity】自分は自分であつて、他人とは違うこと。自己同一性。
あつむ【哀悼】人の死を悲しみいたむこと。「一」の意を表する。

態。「相撲で、勝ち負けの数が同数の意」
アイボリー【ivory】象牙(色)。
一ホワイト【Ivory white】象牙色を帯びた白。
あつま【台間】①物と物の間。②続いている物事の切れめ。「仕事の一」
あつま【曖昧】はつきりしないようす。「一な態度」**罔明瞭**。
一模糊。「ぼんやりしてはつきりしないようす」
アイマスク【和製語 eye mask】安眠・目隠しのために、両目をおおむもの。
あつま【相俟つて】互いの力が合はること。
あつみたが【相身互い】同じ境遇の者どうしが同情し助け合うこと。「武士は一」【相身互い身の略。誤って相見互いとも】
あいまつもり【相見積もり】複数の業者の見積りを比較する行為。あこみ。
アイメイク【和製語 eye make】目元の化粧。
あつやむ【相宿】同じ宿に泊まりあわせること。
あつよう【愛用】好んで使うこと。
あつよく【愛欲】(愛慾)異性への性的な欲望。同性欲・情欲。
アイライン【eyeline】化粧で、目にそって描く線。目ばり。
あつら【愛らしさ】かわいらしさ。
アイラッシュカーラー【eyelash curler】まつげをカールさせるための器具。

あつむ【愛読】好んで読むこと。
あつともなう【相伴う】①連れだつ。②一緒に現れる。
アイドリング【idling】(機械(自動車)のエンジン)を空転させること。「回転数の調整のために」
一ストップ【和製語 idling stop】自動車の駐車車時、エンジンを止めること。
アイドル【idol】かわい(かっこい)い人気者。(もとは偶像)
あいな【あはれ】相半ばする。半分ずつの状態だ。「功罪一」
あいな【相成る】「なる」の改まった言い方。
あつこ【生憎・合憎】具合がわるいようす。「一(一)留守だ」
アイヌ【アイヌ語 ainu】北海道や樺太などに住む民族。「アイヌ語で人の意」
あいのこ【合いの手・間の手】①歌や踊りに合わせて入れる手拍子やかけ声。「もとは、歌と歌の間の二味線の演奏」②話と話の間にはさまる言葉。「一を入れる」
あつこのり【相乗り】①乗る物と一緒に乗ること。②共同で事業などをする。
アイパー【アイロン】使つてかける男性用パー。【和製語 iron permanent】
あつむ【相食む】食(食)う。「骨肉一」
あつはん【合弁】あこみ。
アイバンク【eye bank】失明者への角膜移植をあこみせる機関。目の銀行。
あつはん【相反する】一致しない。

アイランド【island】島。「リゾート」
一キッチン【和製語 island kitchen】壁から離れた所にシンクやコンロを設けた台所。
あつれん【愛憐】「文章語」こころむこと。
あつろ【隘路】「文章語」狭くて険しい道。「山間の一」●障害。
アイロニー【irony】①皮肉。風刺。②反語。
アイロニカル【ironical】皮肉な。皮肉っぽい。
アイロン【iron】熱布地のしわをのばす器具。「一をかける」
あつわ【哀話】かわいそうな物語。●悲話
あつわ【相和す】仲よくする。
あつ【台間】①集まつてひとつになる。②あつはまる。「基準に」③ひきあつ。割にあわな。④互いに…する。「話し」●(会)【逢う】①対面する。②偶然である。●(遭)【遇う】経験する。「災難に」【多々好ましくない場合に使用】
一(会)は別の始め 会うことは、別れるという運命の前提である。
アウェイ【away】サッカーなどで、相手チームの本拠地で行う試合。●ホーム
アウト【out】①外部。外側。「一スペース」
◇アウトナー ●●
一ウエア【outwear】上に着るもの。アウトター。●インナーウエア
アウト【out】①テニスや卓球で、球が線外

アイビー【ivy】ツタの一種。
一スタイル【和製語 ivy style】アイビーク。
一リーグ【Ivy League】アメリカ東部の八大で結成するリーグ。
一ルック アイビークの学生風の服装。【Ivy League lookから】
アイジーエス【IGS】(IGS細胞)体細胞に遺伝子操作を加えてつくる細胞。さまざまな細胞に変化する。人工多能性幹細胞。「ユート」【Induced pluripotent stem cells】
アイビー【IP電話】インターネットの回線を使った電話。
あつむ【合い挽き】牛と豚の肉をまぜて挽くこと(挽いた肉)。
あつむ【逢い引き】男女の密会。
アイピロー【eye pillow】目当てで目の疲れをとる小さな枕。目枕。
あつむ【愛撫】かわいがりなでさすること。
あつむ【合い服・間服】冬服と夏服の間に着る衣服。
アイブロー【eyebrow】まゆ毛。
あつむ【愛別離苦】「仏教語」愛する者と別れる苦し。八苦の一。
あつむ【相部屋】宿屋など、他人どうしが同じ部屋に泊まること。
あつむ【愛慕】愛し慕うこと。●恋慕
あつむ【相棒】共同で仕事を一人(相手)。「もとは駕籠を一緒にかつぐ相手」
あつむ【相星】両者の勝ち数が同じ状

に出ること。②ゴルフで、前半の九ホール。
◇アウト ③野球で、打者・走者がその権利を失うこと。●セーフ ④外の。外側の。「コーナー」
一オフ【out-of-date】時代(流行)おくれ。●アップトゥデート
一オフ【out-of-bounds】球技で、ボールがコート(競技区域)外へ出ること。
一コース【和製語 out course】①競走の、外側の走路。②野球で、アウトコーナー。
◇アウト ●
一コーナー【outside corner】野球や、外角。●インコーナー
一サイター【outsider】局外者。●インサイター
一サイド【outside】①外側。②球技で、ラインの外側。●インサイド
一ソーシング【outsourcing】①業務の外部委託。②海外での部品調達。
一アウト【outdoor】戸外。●イン
一アウト【outbound】①発信。送信。「データ」②海外旅行(客)。「内から外に出る意」●インバウンド
一アウト【output】出力。●イン
一アウト【outboxing】ボクシングで相手から離れて攻撃する戦法。●イン
一アウト ●
一アウト【outline】①輪郭。構成。②概要。
一アウト【outreach】①要介護者への訪問支援。②芸術や研究分野での出張

サービス。◇「手を伸ばす意」

—レット「outlet」余った在庫品を安売りする(直販店。アウトレットストア。

—ロー「loutlaw」無法者。②「和製語

アウトバー」ドイツ語 Autobahn」ドイツの自動車専用的高速道路。

あつん「阿訇」①口を開けて出す「あ」の音と口を閉じて出す「ん」の音。②呼吸。

—の呼吸。◇「梵語の音訳」

あえぐ「喘ぐ」苦しうに呼吸する。①くるしむ。「借金に」

あえて「敢えて」①わざわざ。②(否定表現の中で)必ずしも。「反対しな」

あえない「敢え無い」はかない。あつけない。「一期」

あえもの「和え物」あえた料理。

あえる「和える」材料にみそ・酢などをまぜて調理する。

あえん「亜鉛」金属元素の一。トタン板や合金用。記号 Zn

あお「青」①空色。②緑色。「信号」③馬で青馬がかつたつやのある黒の毛色。また、その馬。④未熟な。「二才」

—は藍より出でて藍より青し 出藍の誉れ。

あおあお「青々」いかにも青いようす。

あおあらし「青嵐」(文章語)青葉のころ

のさわやかな風。せいらん。麴薫風

あおい「葵」アオイ科の植物。

—の紋。紋章の名。特に、徳川家の紋所の三つ葉葵。

あおい「青い」(蒼い) ①青色である。②顔色が悪い。③未熟である。考えが「

—鳥」身近なところにあるのに気づかない幸福。「童話の題名から」

あおいさつこ「青息吐息」困りはたてたようす。

あおいろ「青色」

—申告書。所得税や法人税を申告する制度の一。「主に事業所得に適用」

あおうなばら「青海原」青々とした広い海。

あおうま「青馬」青みがかった黒い毛の馬。白馬。白またはあし毛の馬。

—の節会。古く宮中の行事で、正月七日に行なつた。

あおうめ「青梅」熟していないウメの実。葉高木。街路樹などに使われる。ごどう。

あおん「仰ぐ」①上を向く。②尊敬する。「師と」③教えなどを請う。「指導を」

—毒などを一息に飲む。

あおう「扇ぐ」(煽ぐ)風をおこす。

あおくさ「青草」青々とした草。

あおみ「青み・青味」①青い色(の程度)。②料理のもりつけて添える、緑色の野菜。

あおみずひき「青水引」青黒い色と白色とが半々の水引。(凶事用)

あおみどり「水縮」淡水産の藻の一。生理学・細胞学の実験材料に使う。

あおむけ「仰向け」上を向く。うつむくうつむけ

あおむける「仰向ける」上を向かせる。

あおも「青物」①野菜類の総称。「市場」②皮が青い魚。イワシ・サバなど。

あおやぎ「青柳」①青々と茂つたヤナギ。②バカガイのむきみ。

あおり「煽り」あおること。余勢。「一をく」

—立てる盛んにあおる。

あおり「障泥・泥障」馬具の一。皮製の泥よけ。

—扁賊。ヤリイカ科のイカ。身が柔らかい。刺身用。

あおる「煽る」①あおぐ。「うちわで」②ひるがえす。③あおを打って馬を急がせる。④おだててそそのかす。「大衆を」

—(呻る)一気に入込む。

あか「赤」①色の名の一。②共産主義思想(赤)。③革命軍の旗が赤いことから

—赤字の略。「革命軍の旗が赤いことから」③

あか「垢」肌や水のよれ。

あおくさい「青臭い」青草のようなにおいがする。未熟。「考え」

あおくなる「青くなる」心配などのため青さめる。

あお「青粉」①池などの水を緑色にする植物性フランクton。②アオノリの粉末。

あおさ「石蓴」緑藻類の海藻。食用、飼料用。

アオザイ「ベトナム語 ao dai」ベトナム女性の伝統的衣装。

あおざかな「青魚」背が青い魚。「サバ・イワシ・サンマなど」

あおざめる「青ざめる」顔色が青白くなるおしお「青潮」酸素の少ない海水で硫化水素が発生して海面が青白く見える現象。

あおじそ「青紫蘇」シソの一。大葉。「薬味やさしみのつまに使う」

あおじゃしん「青写真」設計図などを青地に白く焼きつけた写真。将来の計画。「街づくりの一」

あおじり「青汁」①緑黄色野菜のしぼり汁。②青い汁。

あおじろ「青白く」(蒼白く)①青みがかった白。②血の気がないようす。

あおしん「青信号」「進め」「安全」を示す交通信号。③実行可能のしるし。ゴーサイン。青赤信号

あおすじをたてる「青筋を立てる」ひどく怒る。

あおそら「青空」①青く晴れた空。②屋

底にたまつた水。

あかあか「赤々」真っ赤なようす。

あかあか「明々」いかにも明るいようす。「と照らす」

あかい「赤い」赤色である。

—糸。将来結婚する男女の小指を、誕生時から結びつけているという糸。「運命の一」

アカウンタビリテイ「accountability」(行政や企業の負う)説明責任。

アカウント「account」コンピューターやネットワークで、それを利用する権利。また、その権利を示すIDとパスワード。

あかえ「赤絵」陶磁器で、赤色で絵付けをしたもの。また、その陶磁器。「一の皿」

あかがい「赤貝」海産の二枚貝の一。

あかがね「銅」銅。「赤金の意」

あかがみ「赤紙」(俗語)①旧日本軍の召集令状。②差し押さえの封印証書。◇「紙の色が赤いことから」

あかぎ「赤木」①皮をはいだままの木材。②材の赤い木の総称。

あがき「足掻き」あがく。「最後の」

あがき「取れぬい」あがく。「最後」

あがき「脚・靴」寒さで手足の肌がびびわること。「切れる」

あかく「足掻く」じたばたともがく。あくせくと気をもむ。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あおた「青豆」①緑色で大豆のダイズ。②クリンビース。

あかご【赤子・赤児】赤ん坊。―の手をねじるようにともたやすいようす。

あかごめ【赤米】米の品種の一。赤く、雑穀米の材料とする。あかまい。

あかざ(藜)植物の一。若葉は食用。

あかざとう【赤砂糖】粗製の赤い砂糖。

あかさび【赤錆】赤い錆。鋼鐵鉄錆。

あかし【証】証明。灯明とうめい。

あかじ【赤字】①欠損。「不足額は赤字で記すことから」黒字 ②校正の書き入れ。「赤色を使うことから」

①国債券。歳入不足を補うために発行する国の債券。

②セアカカシの俗称。ハリエンジュ。

▼アカシヤ

あかしお【赤潮】微生物の大量発生で海水が赤茶色に見える現象。

あかじみる【垢染みる】垢がついて汚れる。

▼アカシヤ

アカシヤ【アカシヤ】

あかしんじ【赤信号】「止まれ」危険を示す交通信号。①危険が迫ったしるし。「健康に―がともる」青信号

あかしんじ【赤新聞】興味本位の暴露記事をのせる低俗な新聞。イエローペーパー。「かつて淡紅色の紙を使ったことから」といふ。

あかす【明かす】①夜をすこす。②明らかにする。「秘密を―」【証す】証明する。

あかす【飽かす】飽かせる。

あかす【飽かず】飽きない。

①「間」踏切 ②「あかをこすり落とすこと」道具

あかせる【飽かせる】惜しげもなく使う。飽かす。「金とひまにあかせて遊ぶ」

あかだし【赤出汁】赤みそを使った魚肉汁みそ汁

あかちやける【赤茶ける】日にやけ、色あせて赤みがかった茶色になる。

①返り ②母親を赤ん坊の弟や妹に取られる危機感から、子供が年齢不相応に幼い行動をする。

③言葉と幼児語。

あかちん【赤】マキクロムの俗称。

あかつき【暁】①夜明け方。②(希望が実現した)その時。「当選の―には」

③「閨」月のない明け方の闇。

あがつたり【上がつたり】商売や事業が不振なこと。「商売が一だ」

あかつち【赤土】鉄分を含む赤黄色の粘土。

アカデミー【academy】①学問・芸術の研究指導団体。プラトンがアテネ郊外に創設した学園の名から。学士院は訳語

②大学・研究所などの総称。

③賞。アメリカ映画の権威ある賞。オスカー。

④「低い地位であった場合は軽蔑の意を含む」

⑤「家の上がり口の横木。」

⑥「階段や座敷に上がる(上)がってすべの所。あがりくち。」

⑦「込」(家に)上がつてすわる。

⑧「端」座敷の上がり口。

⑨「花」いたばかりのお茶。

⑩「目」目じりの上がつた目。⑪物価などの上がり始めるとき。⑫「下がり目」物。⑬「神仏への供え。⑭「召し上がり物。⑮「田畑の収穫物。」

⑯「湯」ふろから出るときに浴びる湯。

⑰「アガリクス」[agaricus]キノコの一。「エキス」健康食品とされる。

あがりしよ【上がり性】人前で緊張しやすい性格。

あがる【上がる・揚がる】①高くなる。②「類」のぼる。③「おりのる」④「ふろから」陸(部屋)へ。⑤「よくなる」成績が。⑥「目」さがる。⑦「現れる」効果が。⑧「声」が。⑨「わきあがる」⑩「行く」謙譲語。⑪「ボツとなる」⑫「終わる」⑬「仕事が一」⑭「すむ」⑮「五万円で」⑯「飲食する」の尊敬語。⑰「し終わる」焼き。⑱「すっかり」する。「のぼせ」

あがる【挙がる】①高い方に移る。「手があがる」②知られるようになる。「名(証拠)が」③「犯人がつかまる」

あかる【明るい】①「電灯」②「ほがらかだ」③「期待できる」④「未来」⑤「よく知っている」。「歴史に―」⑥「対暗」

⑦「アカバ」

⑧「あきかせ」

⑨「秋風」

⑩「秋に吹く風」

⑪「秋」

⑫「秋」

⑬「秋」

⑭「秋」

⑮「秋」

⑯「秋」

⑰「秋」

⑱「秋」

⑲「秋」

⑳「秋」

㉑「秋」

㉒「秋」

㉓「秋」

㉔「秋」

㉕「秋」

㉖「秋」

㉗「秋」

㉘「秋」

㉙「秋」

㉚「秋」

アカデミズム【academism】学問至上主義。①学問・芸術上の「伝統(権威)主義」

②学風や芸術が保守的なよす。

アカデミック【academic】①学問的。

②学風や芸術が保守的なよす。

あかてん【赤点】「俗語」落第点。「成績表に赤字で記入する習慣から」

あかとんぼ【赤蜻蛉】小形で赤いトンボ。あがなう。【贈う】買求める。「書を―」(贈う)埋め合わせをする。「金で罪を―」

あかなす【赤茄子】トマトの別称。

あかぬける【垢抜ける】洗練される。

あかね【茜】①アカネ科のつる草。②アカネから採る染料(の暗赤色)。あかね色。

あかのたにん【赤の他人】まったく関係のない人。

あかはじ【赤恥】人前でかく大恥。「―を―かく(さらす)―」

あかはた【赤旗】①共産党・労働者を表す旗。「フランス革命での血染めの旗から」

②危険・停止信号の旗。③平家の旗。

あかはだ【赤肌・赤膚】むけて赤くなった肌。

あかはだか【赤裸】まるはだか。

アカハラ 大学などの学術機関におけるパワハラ。アカデミックハラスメントの略

あかびかり【垢光り】着物などが汚れて垢で光ること。

あかふた【赤札】商品につけて、特価品・見切り品・売約済みなどを示す赤い札。

アガペー【agape】キリスト教で、

「愛」の愛。例エロス

アカペラ【cappella】無伴奏の合唱曲。

あがほとけたつとし【吾が仏尊し】自分が尊んでいるものだけを尊いとする。狭い心。

あかまつ【赤松】マツの一。樹皮が赤い。めま。【この松林にマツタケが生える】

あかまんま【赤飯】①赤飯せきはん。②イヌタデの別称。③あかまんま。

あかみ【赤身】①獣肉・魚肉の赤い部分。②白身。③材木の中心の赤い部分。心材。④白太。

あかみそ【赤味噌】赤褐色のみそ。辛口。⑤白みそ

あかむけ【赤剥け】赤はだ(一)になること。

あがめる【崇める】尊敬する。

あからが【赤ら顔】(精ら顔)赤みを帯びた顔。

あからさま おおっぴら。

あかり【明かり】①光。②灯火。

③「先」光のさしてくる方。

④「障子」ふつの障子。

⑤「取」とり光をとり入れる窓。

あがり【上がり】①「騰がり」(あがる)のぼること。②「下がり」③「取益」店の一。④「できあがり」⑤「一丁ちやう」⑥「以前の状態が終わって間もないこと」⑦「病氣(役人)する」

あかす【飽かす】飽かせる。

あかす【飽かず】飽きない。

①「間」踏切 ②「あかをこすり落とすこと」道具

あかせる【飽かせる】惜しげもなく使う。飽かす。「金とひまにあかせて遊ぶ」

あかだし【赤出汁】赤みそを使った魚肉汁みそ汁

あかちやける【赤茶ける】日にやけ、色あせて赤みがかった茶色になる。

①返り ②母親を赤ん坊の弟や妹に取られる危機感から、子供が年齢不相応に幼い行動をする。

③言葉と幼児語。

あかちん【赤】マキクロムの俗称。

あかつき【暁】①夜明け方。②(希望が実現した)その時。「当選の―には」

③「閨」月のない明け方の闇。

あがつたり【上がつたり】商売や事業が不振なこと。「商売が一だ」

あかつち【赤土】鉄分を含む赤黄色の粘土。

アカデミー【academy】①学問・芸術の研究指導団体。プラトンがアテネ郊外に創設した学園の名から。学士院は訳語

②大学・研究所などの総称。

③賞。アメリカ映画の権威ある賞。オスカー。

④「低い地位であった場合は軽蔑の意を含む」

⑤「家の上がり口の横木。」

⑥「階段や座敷に上がる(上)がってすべの所。あがりくち。」

⑦「込」(家に)上がつてすわる。

⑧「端」座敷の上がり口。

⑨「花」いたばかりのお茶。

⑩「目」目じりの上がつた目。⑪物価などの上がり始めるとき。⑫「下がり目」物。⑬「神仏への供え。⑭「召し上がり物。⑮「田畑の収穫物。」

⑯「湯」ふろから出るときに浴びる湯。

⑰「アガリクス」[agaricus]キノコの一。「エキス」健康食品とされる。

あがりしよ【上がり性】人前で緊張しやすい性格。

あがる【上がる・揚がる】①高くなる。②「類」のぼる。③「おりのる」④「ふろから」陸(部屋)へ。⑤「よくなる」成績が。⑥「目」さがる。⑦「現れる」効果が。⑧「声」が。⑨「わきあがる」⑩「行く」謙譲語。⑪「ボツとなる」⑫「終わる」⑬「仕事が一」⑭「すむ」⑮「五万円で」⑯「飲食する」の尊敬語。⑰「し終わる」焼き。⑱「すっかり」する。「のぼせ」

あがる【挙がる】①高い方に移る。「手があがる」②知られるようになる。「名(証拠)が」③「犯人がつかまる」

あかる【明るい】①「電灯」②「ほがらかだ」③「期待できる」④「未来」⑤「よく知っている」。「歴史に―」⑥「対暗」

⑦「アカバ」

⑧「あきかせ」

⑨「秋風」

⑩「秋に吹く風」

⑪「秋」

⑫「秋」

⑬「秋」